14　歯科ホワイトニングの診査・診断に関する検討
—SHADE UP Navi Whitening Chartについて—

中山　恵[1]，瀬賀紗都子[1]，金子　潤[1, 2]
明倫短期大学　[1]附属歯科診療所，[2]歯科衛生士学科

keywords：歯科ホワイトニング，診査項目，難易度

はじめに

歯科ホワイトニングを成功に導くためには，術前コンサルテーションにおいて患者と術者側との色彩改善のエンドポイントを一致させることが重要である．術前の適切な診査によって症例ごとの難易度を診断できれば，エンドポイントをより正確に設定することが可能となる．近年，ホワイトニングにおける難易度を予測するためのSHADE UP Navi Whitening Chartが松風より発売された．今回，本チャートによる診査・診断を４名の患者に適用し，その術後評価とともに診査項目に関する若干の考察を加えた．

対象および方法

SHADE UP Navi Whitening Chart（以下チャート）は，①着色度　②色の傾向（色調）③バンディング ④ホワイトスポット ⑤顔の色 ⑥修復処置（１歯）⑦修復処置（全体）⑧テクスチャーの８項目をそれぞれ１点から３点までの３段階で評価し，その合計点数によって難易度を判定する（図１）．

今回，本学附属歯科診療所に歯のホワイトニングを希望して来院した患者のうち，本研究の趣旨を説明し同意の得られた４名（すべて女性：平均年齢23.0歳）に対して，術前に本チャートを用いた診査・診断を行った．各患者はティオンホームによるホームホワイトニングを，メーカー指示通りに上顎のみ１日２時間，計14日間行い，終了時に上顎処置の満足度について５段階で評価した．術前・術後の色彩記録は，上顎右側中切歯に関して，シェードガイドを用いた視感比色法と歯科用色彩計を用いた歯冠中央部の物理測色法により色彩学的に行った．これらの術後評価について，術前のチャートによる難易度判定結果と比較した．

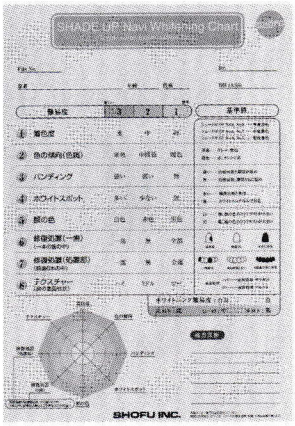

図１　SHADE UP Navi Whitening Chart

結果および考察

表１に各患者の本チャートによる診断結果，術前からの色彩変化，術後の患者満足度を示す．

表１　各患者の診断結果と術後評価

患者	A	B	C	D
難易度（点）	16	15	13	14
難項目	顔の色	修復処置	テクスチャー	ホワイトスポット
⊿E	7.3	7.0	6.4	7.5
⊿W	5.7	3.5	4.0	7.4
⊿sgu	3.0	2.0	3.0	2.5
満足度	満足	やや不満	満足	どちらでもない

術前の診査・診断では難易度が13点から16点の範囲に分布し，いずれも中等度と診断された．術前からの色彩変化は⊿Eが6.4から7.5，⊿Wが3.5から7.4，⊿sguが２から３であり，どの患者もおおむね良好なホワイトニング効果を示した．一方で，患者の満足度は「満足」２名,「どちらでもない」「やや不満」各１名とばらつきがみられた．とくにホワイトニング対象歯にホワイトスポットや修復処置が認められる場合，色彩変化が顕著でも患者の満足度は高くなかった．本チャートの診査項目はおおむね妥当と考えられるが，今後は診査項目に入っていない「年齢」や「喫煙」などの要素も加味した本学附属歯科診療所独自のホワイトニング診断チャートを検討していきたい．